もも・ネクタリン情報　No.6

令和6年6月6日発行
JAグリーン長野営農販売部・経済部
JAグリーン長野もも部会

長野県No.１のもも･ネクタリン産地を守ろう！

◆生育状況と当面する重点作業について

生育は、昨年より３～５日遅い生育状況。今後の気象で変化するので作業が遅れないよう注意する。

１．せん孔細菌病の枝病斑が見受けられる。摘果と併せ病斑の切除を徹底し、被袋を早める。
２．硬核期となり、生理的に不安定な時期にとなる。核障害の低減のため、急激な摘果・新梢管理にならぬよう十分注意する。
３．袋掛けを行う。併せて誘引・芽かき・摘心を励行する。
４．無袋栽培園では摘果忘れ等で部分的に着果過多になりやすい。定期的に見直し摘果を行う。
５.この時期は平年並みの降水量でも水分が不足する場合がある為、こまめにかん水を実施する。なお、大量のかん水は核割れを助長するので、乾湿差を少なくするよう小まめに実施する。干天が続いたら１０日位に２０㎜程度、又は７日位に１５㎜程度のかん水を行なう。
６．配布されている「葉面散布肥料・特殊資材の使い方」を参考に葉面散布資材を有効に活用する。

【もも薬剤防除】

◆第８回薬剤散布について

1. 散布時期:6月22日(土)～6月26日(水)　　《実際散布日記入　　月　　日》
2. 調　合　量:水100ℓ当り　※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展　　着　　剤	１０㎖	―	―
㊞デランフロアブル	１６６㎖	せん孔細菌病・灰星病・黒星病・ホモプシス腐敗病	７日前
㊞バリアード顆粒水和剤	２５ｇ	シンクイムシ類・アブラムシ類	前日

※収穫直前・収穫中の品種への農薬飛散に十分注意する。

3. 散　布　量:10a当り ⇒ 500 ℓ　以上
3. 留意事項

①早生品種(たまき・なつき等)は除袋後防除並びに収穫２日前防除の薬剤散布を行う。

②ハダニ類の発生が心配される園は、コロマイト乳剤 1,000 倍（水 100ℓ に 100㎖／もも収穫 7 日前まで）を加用散布する。

【ネクタリン薬剤防除】　※もも･ネクタリン混植園

◆第８回薬剤散布について

1. 散布時期:6月22日(土)～6月26日(水)　　《実際散布日記入　　月　　日》
2. 調　合　量:100ℓ当り　※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展　　着　　剤	１０㎖	―	―
ベルクートフロアブル	５０㎖	灰星病・黒星病	前日
㊞バリアード顆粒水和剤	２５ｇ	モモハモグリガ・シンクイムシ類	３日前

※収穫直前・収穫中の品種への農薬飛散に十分注意する。

3. 散　布　量:10a当り ⇒ 500 ℓ　以上

4. 留意事項

①早生品種（たまき・なつき・アームキング・メイグランド・サマークリスタル等）は、除袋後防除並びに収穫２日前防除の薬剤散布を行う。

②せん孔細菌病の発生が多い場合は、㊞デランフロアブル 600 倍（水 100ℓ に 166mℓ・もも 7 日前・ネクタリン 14 日前）または、スターナ水和剤 1,000 倍（水 100ℓ に 100ｇ・もも前日まで・ネクタリン収穫 7 日前まで）を加用散布してもよい。ただし収穫前規制に注意する。

③降雨が多い場合は、ベルクートフロアブルを 1,500 倍（水 100ℓ に 66mℓ）で使用してもよい。

④ハダニ類の発生が心配される園は、コロマイト乳剤 1,000 倍（水 100ℓ に 100mℓ／もも収穫 7 日前まで・ネクタリン収穫 7 日前まで）を加用散布する。

収穫前規制のため、飛散に十分注意する。

◆もも・ネクタリン早生種の収穫前薬剤散布について

1. 除袋の目安(上枝) :アームキング:6月中下旬頃

除袋のタイミングは果実の地色が抜け果皮が淡く白冴えになったころが目安。

2. 薬剤防除

①有袋除袋後又は、無袋着色始め（収穫7～10日前頃）の薬剤散布を行う。

・調 合 量:水100ℓ 当り ※混用順に記載。 《実際散布日記入　　月　　日》

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
アプローチＢＩ	１００mℓ	機能性展着剤	―
スクレアフロアブル	３３mℓ	灰星病・ホモプシス腐敗病	前日まで
アーデントフロアブル	５０mℓ	ﾓﾓﾊﾓｸﾞﾘｶﾞ・ﾐｶﾝｷｲﾛｱｻﾞﾐｳﾏ・ｼﾝｸｲﾑｼ類・ﾊﾏｷﾑｼ類	前日まで

②収穫開始２日前防除の薬剤散布を行う。 ★降雨が多い場合は、非常に重要な防除。

・調 合 量:水100ℓ 当り ※混用順に記載。 《実際散布日記入　　月　　日》

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
アプローチＢＩ	１００mℓ	機能性展着剤	―
（ディアナ　ＷＤＧ）	２０ｇ	ﾐｶﾝｷｲﾛｱｻﾞﾐｳﾏ・ｼﾝｸｲﾑｼ類・ﾊﾏｷﾑｼ類	前日まで
オンリーワンフロアブル	５０mℓ	灰星病・ホモプシス腐敗病	前日まで

・散　布　量:10a当り ⇒ 500ℓ 以上

③留意事項

・ミカンキイロアザミウマ、シンクイムシ類、ハマキムシ類の発生が心配される園は、『収穫開始2日前防除』にディアナ WDG5,000 倍（水 100ℓ 当り 20g・収穫前日まで）を加用散布する。

・スクレアフロアブルも代えて、ミギワ20フロアブル 4,000 倍（水 100ℓ 当り 25mℓ・収穫前日まで）を使用してもよい。

・オンリーワンフロアブルに代えて、オーシャインフロアブル 2,000 倍（水 100ℓ 当り 50 mℓ・収穫前日まで）を使用してもよい。

◆桃の袋かけについて

1. 袋かけ時期

①肌荒れ、裂果防止のため、目安として、6月上中旬頃とし、遅くとも6月下旬頃には終了させたい。

②生理落果の多い川中島白鳳等は、この頃見直し摘果をし、最後に袋掛けをする。

2. 袋かけの要領:一度掛けた袋には触れないようにする。

①高い所⇒低い所へ　②奥の方⇒手元の方へ順序よく

3. 注意点

①ガク片（花かす）が着いていると、灰星病や灰色かび病の発生源になるので、ガク片を落として袋かけを行う。

②せん孔細菌病の発生が多い園は、果実感染防止のため、早めに実施する。

◆薬害の発生と予防対策について

毎年この時期になると、もも・ネクタリンの落葉の報告があります。薬剤散布に起因しているので、葉の弱いこの時期は下記内容に留意して下さい。

1. 黄変落葉は、薬剤が葉緑素と結合して脱色するもので、通常は薬効が切れれば回復するが樹勢衰弱樹では落葉する。症状は、褐色斑点⇒せん孔⇒落葉となる。
2. 原因
   ①高濃度での使用(散布)　②乳剤類・展着剤の過剰使用　③多種類混用
   ④重複散布　⑤日照不足時　⑥高温乾燥時　⑦樹勢不安定　等
3. 散布上での問題点として、タンクの底に薬剤が固まったり、残ることのないようよく溶かす事。
   30分以内に乾く条件で散布したい。

◆ネクタリンの栽培日誌の提出について

ネクタリン出荷予定の方は期日まで提出されますようご協力下さい。

1. 提出要領：6月17（月）までに地区役員さんまで提出して下さい。
※役員さんは6月18（火）までに各流通センター・共選所まで提出して下さい。
※各個人より、各流通センター・共選所まででも結構です。この場合、役員さんに直接持って行く事を連絡して下さい。

2. 留意事項
   ①今回提出用の栽培日誌を配布いたしますので、記入不備の無いよう注意下さい。
   ②**第７回防除まで記入**して下さい。
   ③日誌をチェックし法的に問題がある場合は、荷受けはできません。
   ④日誌を提出せずに出荷した場合は、日誌提出並びにチェックを受けるまで、荷受・選果・販売はできません。

◆せん孔細菌病と灰星病の対策を実施しよう！！

1. 6月からの感染症状と特徴
   ①6～8月は、本年伸びた新梢に発生をする夏型枝病斑の発生がある。
   はじめ紫赤色の病斑だが，広がるにつれて紫黒色になってへこみ，枝に沿って縦長の病斑を形成する。当年の伝染源にはなるため、これも剪除する。
   ②葉での発病は、はじめに葉脈で区切られた不整形の斑点ができ、淡褐色～紫褐色の斑点となり、やがて病斑部分が乾いて抜け落ち、不整形の穴になる。
   梅雨期には、葉の発病が増加する。
   かなり目立つようであれば、二次伝染が盛んになる。
   降雨が続いて、園地内に雨水が長時間残ると、
   葉の気孔が開くため、感染が起こり多発生になる。
   ③果実での発病は、幼果ほど感染しやすく、ピンポン玉より大きくなると感染しにくくなる。
   幼果の感染後、発病まで2～3週間、ピンポン玉大で40日以上と長くなる。このため、大きくなってから感染すると、有袋栽培では、除袋後でないと発病に気づかない。又は、収穫時に発病しておらず、当年の果実品質に影響が無い場合もある。
   なお、収穫時期が遅い品種ほど、多くなる傾向にある。
2. 今後の対策
   ①春型枝病斑の剪除に続いて夏型枝病斑の剪除をする。
   切除の際は切り口の形成層を確認し、茶色い筋が見える場合は、更に多めに切除し、再発を防ぐ。
   枝病斑にヤニが出ている場合、触らないようにする。触った手は感染防止のため果実に触れないようにする。
   ②袋掛けも果実感染を防ぐ重要な方法。
   発生が多い園は、早めに袋掛けを実施する。
   ③薬剤防除は、効果は完全ではないが重要。
   当年の果実感染を考えると、袋掛けまでが防除時期。なお、散布量を多くしてしっかり撒く事（特に発生の多い園外周）
   ④排水性の悪い園は、対策を行う。

《栽培に関する営農技術員への問合》
徳武（篠ノ井西部）：080-1202-0260／外谷（篠ノ井東部・情報担当）：080-8048-6602
※篠ノ井西部は、当面、寺澤・松坂・佐藤・外谷も対応致します。
佐藤（信更）：090-7179-9866／伊藤（松代）：080-2239-6816
松橋（川中島）：090-4816-6297／根津（更北）080-1203-8576
松澤（若穂）080-1191-5166／寺澤（全域・情報編集）：080-1188-5229
吉澤（全域・情報監修）：090-2543-0365
栽培に関しての電話対応は、担当地区関係なく対応できます。園地指導や地区組織関係のお問い合わせは、地区担当までお願い致します。
○果樹のアドバイザー（流通センター長兼務）松坂（篠ノ井西部）080-1188-4131
《栽培・販売に関する問合》各流通センター・共選所／営農販売部（本所）：292-0930
《資材に関する問合》各ＪＡファーム・営農資材センター・経済部農業資材課：299-3311